



KEY NOTE

2016年3月期中間報告書
2015年4月1日~2015年9月30日

アコム株式会社
証券コード 8572



社名の由来

acom

Affection (愛情) Confidence (信頼) Moderation (節度)

企業理念

アコムは人間尊重の精神と
お客さま第一義に基づき
創造と革新の経営を通じて
楽しく豊かなパーソナルライフの実現と
生活文化の向上に貢献する

アコムグループビジネス倫理

経営ビジョン

一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき
個人ローン市場において社会に信頼される「リーディングカンパニー」を目指す

中期目標

個人ローン市場において「シェアNo.1企業」となるべく第39期末1.6兆円を達成するとともに、海外個人ローン市場において「貸付残高 日系企業No.1」の地位を確立する

中期重点課題

- コンプライアンス風土の深化
- 新規集客の拡大に向けたマーケティング力の強化
- 債権健全性を維持した業容拡大の実現
- 保証事業の中核事業としての確立
- 海外事業の中核事業への成長
- グループ回収基盤の拡充
- コスト最適化の実現
- 次世代を担う人材育成の強化

2015年度経営方針

中期目標を達成するとともに将来の環境変化を見据えたサービスを提供し、全社員が一丸となってシェアNo.1を目指す

<小誌の発行にあたって> 本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社グループが把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を内包するものであって、現実の業績は、諸々の要因により、かかる予想値と異なってくる可能性があります。

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

市場・競争環境におきましては、国内の個人ローン市場は順調に拡大を続けており、事業環境に明るい兆しが見えはじめておりますが、専業大手やメガバンク、有力地方銀行、インターネット銀行を中心に、事業投資を拡大し、競争環境は、業種業態の垣根を越えた構造に変化しており、加えて、利息返還請求件数が高水準で推移していることから、依然として、厳しい経営環境であると認識しております。

このような経営環境の中、当社グループの業容は、ローン事業、信用保証事業、海外金融事業の中核3事業すべてにおいて、概ね順調に拡大しており、連結営業収益は、前年同期比10.9%増収の1,184億円となり、営業利益は22.2%増益の369億円、経常利益は21.9%増益の371億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は20.4%増益の338億円となりました。

しかしながら、依然として、利息返還請求件数が高水準で推移している状況を鑑み、中間配当は、誠に遺憾ながら、当初の予定通り無配とさせていただきます。

中核3事業の安定成長、特にローン事業の安定成長が確実となり、利息返還請求による自己資本毀損リスクが完全に払拭された時点で、速やかに復配させていただきたいと考えておりますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後も、株主の皆さまのご期待に添えるよう、MUFグループとの緊密な連携をはかりつつ、持続的成長による企業価値の最大化と、広く社会に貢献する企業グループを目指していく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2015年12月

アコム株式会社
代表取締役社長兼会長

木下盛好



連結経営成績 (2015.4～2015.9)

当第2四半期連結累計期間は増収増益

当第2四半期連結累計期間における営業収益は、営業貸付金利息や信用保証収益の増加を主因に1,184億7百万円(前年同期比10.9%増)、営業費用は、貸倒引当金繰入額や支払手数料などのその他経費の増加により814億9千万円(前年同期比6.5%増)となり、営業利益は369億1千7百万円(前年同期比22.2%増)、経常利益は371億7千9百万円(前年同期比21.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は338億1千4百万円(前年同期比20.4%増)となりました。

連結経営成績

科 目	2014.3	2014.9	2015.3	2015.9	2016.3(予想)
営 業 収 益 (百万円)	202,240	106,738	219,289	118,407	230,000
営 業 利 益 (百万円)	14,333	30,219	14,073	36,917	57,600
経 常 利 益 (百万円)	15,567	30,506	14,747	37,179	57,800
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	10,632	28,090	12,864	33,814	51,000
1株当たり当期純利益 (円)	6.79	17.93	8.21	21.58	32.55
ROE (自己資本当期純利益率) (%)	3.7	9.1	4.2	10.3	—
ROA (総資産当期純利益率) (%)	0.9	2.4	1.1	2.8	—

(注) 1. ROE、ROA算出のための自己資本および総資産は期首と期末の平均値を使用しています。

2. 「連結財務諸表に関する会計基準」第39項に掲げられた定め等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

業績の推移

営業収益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



○ 通期業績見通し

当第2四半期連結累計期間の業績は、2015年5月8日に公表した第2四半期連結業績予想に対し、営業収益4.6%増、営業利益32.3%増、経常利益31.8%増、親会社株主に帰属する四半期純利益34.2%増となりました。

通期連結業績予想に対する当第2四半期連結累計期間の進捗率は、営業利益64.1%、経常利益64.3%、親会社株主に帰属する四半期純利益66.3%と順調に推移しておりますが、利息返還損失引当金の繰入リスクが完全に払拭できていないことから、通期業績予想は変更せず、営業収益2,300億円、営業利益576億円、経常利益578億円、親会社株主に帰属する当期純利益510億円としております。

○ 利息返還の状況

当第2四半期連結累計期間の利息返還損失は、利息返還金268億8千8百万円(前年同期比3.7%減)と債権放棄額58億4千8百万円(前年同期比1.1%減)の合計327億3千7百万円(前年同期比3.2%減)となり、全額を利息返還損失引当金から取り崩した結果、当第2四半期末の同引当金は698億6千2百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における利息返還請求は、前年同期と比べ減少基調で推移しております。

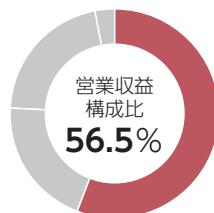
利息返還損失引当金の推移

(単位：百万円)

	2014/3	前期比 yoy%	2014/6	2014/9	2014/12	2015/3	前期比 yoy%	2015/6	前年同期比 yoy%	2015/9	前年同期比 yoy%
期首引当金残高	151,000	-24.6	124,100	124,100	124,100	124,100	-17.8	102,600	-17.3	102,600	-17.3
取崩額	72,393	-21.5	17,159	33,823	50,875	71,359	-1.4	15,793	-8.0	32,737	-3.2
利息返還金	58,461	-17.1	14,041	27,911	42,078	58,803	0.6	12,862	-8.4	26,888	-3.7
貸倒損失(債権放棄)	13,932	-35.7	3,117	5,911	8,796	12,556	-9.9	2,931	-6.0	5,848	-1.1
繰入額	45,493	5.9	—	—	10,600	49,859	9.6	—	—	—	—
期末引当金残高	124,100	-17.8	106,940	90,276	83,824	102,600	-17.3	86,806	-18.8	69,862	-22.6
引当金増減額	-26,900	—	-17,159	-33,823	-40,275	-21,500	—	-15,793	—	-32,737	—

ローン・包括信用購入あっせん事業

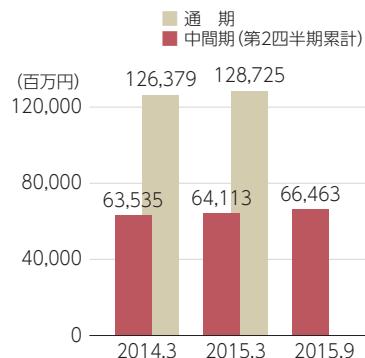
新客数、営業貸付金ともに増加



国内のローン・包括信用購入あっせん事業においては、商品・サービス機能の向上、新規集客の拡大、クレジットカード（ACマスターカード）の販売促進、債権内容の健全性維持等に取り組み、当第2四半期連結会計期間末における当社の営業貸付金は7,600億9千4百万円（前年同期末比2.9%増・前期末比1.7%増）、割賦売掛金は246億9千1百万円（前年同期末比29.1%増・前期末比14.3%増）となりました。

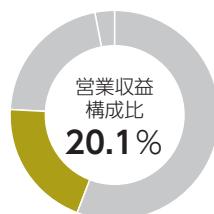
当第2四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金利息や償却債権回収益の増加などにより、営業収益が664億6千3百万円（前年同期比3.7%増）となり、営業利益は225億5千2百万円（前年同期比12.2%増）となりました。

営業収益 **664** 億円
（前年同期比 3.7% 



信用保証事業

当社およびエム・ユー信用保証ともに信用保証残高が増加



信用保証事業においては、新規保証提携の推進や既存提携先との連携強化に取り組み、当第2四半期連結会計期間末における当社およびエム・ユー信用保証(株)の信用保証残高は合算で9,262億1千9百万円（前年同期末比14.6%増・前期末比7.5%増）となりました。

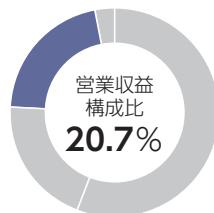
当第2四半期連結累計期間の業績においては、信用保証収益の増加を主因に、営業収益が236億8千6百万円（前年同期比24.3%増）となり、営業利益は72億9百万円（前年同期比49.4%増）となりました。

営業収益 **236** 億円
（前年同期比 24.3% 



海外における金融事業

新たな地域への事業展開を視野に 調査活動を継続



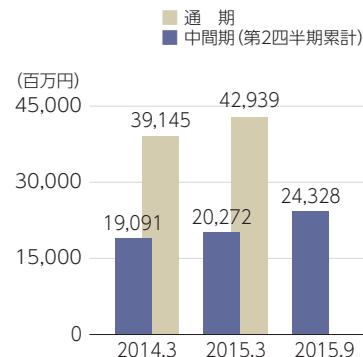
海外における金融事業においては、タイ王国のEASY BUY Public Company Limitedにおけるローン事業が堅調に推移し営業貸付金が増加、インドネシア共和国のPT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.における銀行業では債権内容の健全化に注力するとともに内部管理態勢の強化に取り組みました。また、旺盛な内需が期待される中国と発展著しいベトナムの両国における今後の事業展開を視野に、各種法令や市場分析など、駐在員事務所を中心に調査活動を継続しております。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金利息の増加に円安の為替影響も加わり、営業収益が243億2千8百万円（前年同期比20.0%増）となり、営業利益は56億8千5百万円（前年同期比18.0%増）となりました。

営業収益

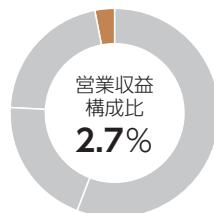
243 億円

(前年同期比 20.0% ↑)



債権管理回収事業

増収増益を実現



債権管理回収事業においては、アイ・アール債権回収(株)では、金融機関における不良債権処理が減少しつつあることを背景に、買取債権市場において競合環境が激化する中、事業の体質強化や収益力向上に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、買取債権回収高の増加を主因に、営業収益が32億3千5百万円（前年同期比0.5%増）となり、加えて営業費用において貸倒引当金繰入額が減少したことなどから、営業利益は10億8千2百万円（前年同期比216.5%増）となりました。

営業収益

32 億円

(前年同期比 0.5% ↑)



(注) 営業収益構成比は、連結営業収益1,184億7百万円のうち、その他の営業収益6億9千5百万円を除いて算出しております。

1 コーポレートガバナンス・コードへの対応状況

当社は、コーポレートガバナンス・コードが要請する73原則について、すべて実施しており(Comply)、特定の事項として開示すべき原則につきましては、「コーポレートガバナンス報告書」に記述し、当社ホームページに掲載しております。

今後も、コーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を尊重し、会社が持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、自発的に対応をおこなうとともに、透明性・公正性が確保された意思決定と適時適切な情報開示に努めてまいります。

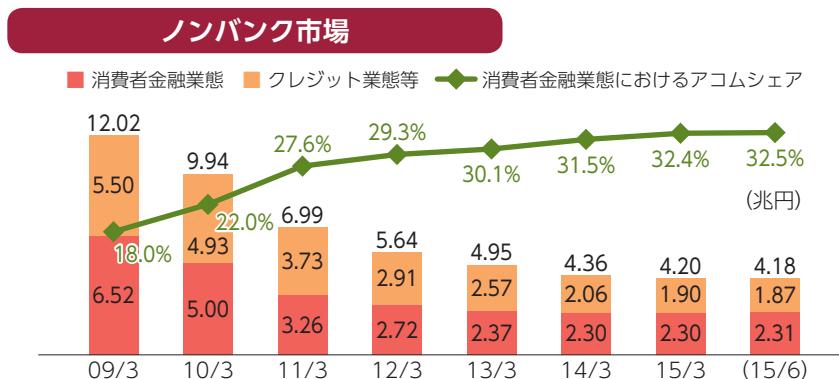
コーポレートガバナンス報告書につきましては、下記URLをご参照ください

<http://www.acom.co.jp/corp/activity/governance/>

2 ノンバンク市場：消費者金融業態の市場規模が反転

消費者金融業態の市場規模は、2015年6月末の速報値で2兆3,100億円と前期末比増加に転じました。また、当社は、2014年3月に営業貸付金残高の反転を実現した以降も順調に残高を拡大しており、同市場におけるシェアを継続的に高めております。

ノンバンク市場は、引き続き減少基調ではあるものの、足下ではクレジット業態等の市場規模に底打ち感が出ているなど明るい兆しが見えております。今後は、消費者金融専門大手の残高伸長に伴い、「新たな成長段階」を迎えるものと考えております。



【出典：日本貸金業協会統計 2015年6月数値は速報値】

※ノンバンク市場とは、消費者向貸付（住宅向け貸付除く）の3業態計

アコム の社会貢献活動方針

当社は、経営の基本的な理念として、創業の精神に「信頼の輪」を、企業理念に「生活文化の向上に貢献する」を掲げております。社会貢献活動においても、この理念に基づいて、社会福祉、地域貢献等、さまざまな活動を通じて、地域社会と良好な関係を築きつつ、「身近なアコム」と「社会に調和した企業市民」を目指しております。

世代やハンディキャップを超えて楽しめる、バリアフリーコンサート

20周年を超えた笑顔のおてつだい 「アコム“みる”コンサート物語」

「アコム“みる”コンサート物語」は、「誰かのために何かをしたい」、「多くの人の笑顔がみたい」、「地域社会と良好な関係を築きたい」という『3つの思い』を胸に、活動を続けています。

1994年から全国各地で開催された「アコム“みる”コンサート物語」は、皆さまに愛され、おかげさまで20周年を超えるロングラン公演となっております。

バリアフリー支援のための創意工夫

- ❖ 車イス専用席の拡充、手話通訳の導入、ボランティアによるご案内
- ❖ 景品として各種施設からの授産製品の購入、福祉施設へパンフレット封入の業務委託

コンサート概要

「アコム“みる”コンサート物語」は、光を形にする「影絵」、生演奏の「音」、影絵に生命の息吹をもたらす「語り・手話」という3つの要素を融合させることで幻想的な世界を創る独創的なタイプの芸術です。手作りの舞台の臨場感を味わうことで、演じる側とお客さまが感動を共有し、心の交流を実感することができます。

公演実績 2015年9月30日現在

- ❖ 1994年の初回公演以来、全国各地で198回公演、総来場者数189,998名
- ❖ 2015年上期は、埼玉（三郷）、千葉（八千代）、北海道（室蘭・苫小牧）、神奈川（厚木・相模原）で計6公演を開催



ピーターパン

お客さまの声

3度目の参加ですが、
何度みても感動を与えてもらえます。
（苫小牧公演）
未永く続けてください。

乳児から67歳の私まで、
三世大家族5人で楽しませていただきました。
家族揃って楽しめるコンサートは
なかなかないので、とても嬉しかったです。
（苫小牧公演）

音楽を聴きながら、
きれいでかわいい影絵を楽しめることは、
想像力が豊かになり、
とてもすばらしかったです。
皆が楽しめるように、
手話があったのも良かったです。
（三郷公演）

無料のコンサート、
更にバリアフリーとのことだったので、
子どもを連れて気軽に参加でき、
楽しい時間を過ごすことができました。
（八千代公演）

入場したときから笑顔で迎えていただき、
あたたかい雰囲気を感じられました。
たくさんの人が楽しめる、
素晴らしいコンサートです。（相模原公演）

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目				前期末 2015年3月31日現在	当第2四半期末 2015年9月30日現在
資	産	の	部		
流	動	資	産	1,131,909	1,147,516
	現	金	預	119,835	124,309
	営	業	金	877,427	892,889
	銀	行	出	64,582	60,016
	割	賦	掛	22,295	25,332
	買	取	債	8,473	9,490
	有	価	権	9,804	6,208
	縁	延	証	25,189	25,843
	そ	の	産	57,224	58,224
	貸	倒	他	△ 52,923	△ 54,798
	固	定	金	58,459	56,379
	有	形	産	24,215	23,626
	無	形	産	14,568	13,495
	投	資	産	19,675	19,257
		そ	の		
		他	の		
		資	産		
		産	計	1,190,368	1,203,896
資	産	合	計		
負	債	の	部		
流	動	負	債	283,812	256,140
	短	借	入	32,850	13,539
	1年	内	返	113,340	108,888
	1年	内	償	35,422	41,290
	銀	行	業	79,248	71,123
	債	務	保	7,013	7,428
	所	有	の	15,937	13,871
	固	定	負	578,240	585,406
	社	長	借	167,890	191,287
	長	期	入	297,349	313,723
	繰	延	金	4,288	4,572
	利	息	損	102,600	69,862
	資	産	引	4,608	4,554
	所	有	当	1,502	1,405
		の	金		
		他	務		
		他	他		
		計	計	862,053	841,547
負	債	合	計		
純	資	産	の		
株	主	資	本	307,136	340,951
	資	本	金	63,832	63,832
	利	益	余	73,671	73,671
	自	己	金	189,426	223,241
	そ	の	式	△ 19,794	△ 19,794
	其	他	額	5,450	4,730
	の	有	差	8	6
	為	替	額	3,546	2,968
	退	職	勘	1,896	1,755
	非	支	定	15,727	16,666
		配	額		
		株	計		
		主	分		
		持	分		
		分	分		
		計	計	328,315	362,349
		計	計	1,190,368	1,203,896

連結貸借対照表のポイント

A 営業貸付金

営業貸付金は、当社およびEASY BUYの無担保ローン残高の増加に、為替変動による影響が加わり、前期末に比べ154億6千2百万円の増加(前期末比+1.8%)となりました。

B 割賦売掛金

割賦売掛金は、当社においてクレジットカード(ACマスターカード)に焦点を当てたテレビCMを放映するなど、積極的なプロモーション活動を推進したことから、前期末に比べ30億3千7百万円の増加(前期末比+13.6%)となりました。

C 有利子負債

借入金、社債などの有利子負債残高は、前期末に比べ218億7千5百万円の増加(前期末比+3.4%)となりました。

D 利息返還損失引当金

利息返還損失引当金は、利息返還金と債権放棄額の合計327億3千7百万円を全額取り崩しで対応したことにより、前期末に比べ327億3千7百万円の減少(前期末比△31.9%)となりました。

E 自己資本

自己資本は、前期末に比べ330億9千4百万円の増加(前期末比+10.6%)となり、自己資本比率は、2.4ポイント増加し、28.7%となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで
営 業 収 益	106,738	118,407
営業貸付金利息	70,709	75,509
銀行業貸出金利息	4,166	4,218
包括信用購入あっせん収益	1,241	1,593
個別信用購入あっせん収益	52	48
信用保証収益	16,941	20,995
買取債権回収高	2,617	2,674
その他の金融収益	647	712
その他の営業収益	10,362	12,655
営 業 費 用	76,518	81,490
金融費用	9,892	9,239
債権買取原価	1,027	1,129
その他の営業費用	65,599	71,120
営 業 利 益	30,219	36,917
営 業 外 収 益	323	401
受取利息・配当金	90	156
受取家賃	158	154
その他	74	90
営 業 外 費 用	37	139
支払利息	11	10
為替差損	-	95
投資事業組合運用損	11	8
その他	15	26
経 常 利 益	30,506	37,179
特 別 利 益	23	0
固定資産売却益	9	0
投資有価証券売却益	13	0
特 別 損 失	34	12
固定資産売却損・除却損	33	11
その他	0	1
税金等調整前四半期純利益	30,495	37,167
法人税、住民税及び事業税	1,553	1,957
法人税等調整額	△ 546	△ 321
四 半 期 純 利 益	29,488	35,531
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,397	1,717
親会社株主に帰属する四半期純利益	28,090	33,814

連結損益計算書のポイント

A 営業貸付金利息

営業貸付金利息は、当社およびEASY BUYの無担保ローン残高の増加に、為替変動による影響が加わり、前年同期に比べ47億9千9百万円の増加(前年同期比+6.8%)となりました。

B 信用保証収益

信用保証収益は、当社およびエム・ユー信用保証の信用保証残高が順調に伸長したことにより、前年同期に比べ40億5千3百万円の増加(前年同期比+23.9%)となりました。

C その他の営業費用

その他の営業費用は、貸倒引当金繰入額や支払手数料などの増加により、前年同期と比べ55億2千1百万円の増加(前年同期比+8.4%)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	30,495	37,167
減価償却費	1,732	2,015
のれん償却額	492	492
貸倒引当金の増減額	4,038	2,069
利息返還損失引当金の増減額	△ 33,823	△ 32,737
営業貸付金の増減額	△ 17,079	△ 17,271
銀行業貸出金の増減額	△ 577	1,250
割賦売掛金の増減額	△ 1,694	△ 3,046
買取債権の増減額	174	△ 1,016
銀行業預金の増減額	232	△ 4,083
その他	54	△ 1,947
小計	△ 15,956	△ 17,107
利息及び配当金の受取額	89	156
法人税等の支払額	△ 1,435	△ 2,344
その他	397	342
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,904	△ 18,953
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 1,059	△ 376
有形固定資産の売却による収入	25	0
無形固定資産の取得による支出	△ 2,049	△ 575
投資有価証券の取得による支出	△ 1,941	△ 580
投資有価証券の売却による収入	13	0
その他	27	230
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,982	△ 1,300
財務活動によるキャッシュ・フロー		
有利子負債の借入等による収入	228,714	153,839
有利子負債の返済等による支出	△ 198,802	△ 131,325
その他	△ 1,240	△ 470
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,670	22,042
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 104	△ 275
現金及び現金同等物の増減額	6,678	1,513
現金及び現金同等物の期首残高	151,711	122,306
現金及び現金同等物の四半期末残高	158,390	123,819

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

A 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、利息返還損失引当金の減少(327億3千7百万円)、営業貸付金の増加(172億7千1百万円)、銀行業預金の減少(40億8千3百万円)などの減少要因と、税金等調整前四半期純利益(371億6千7百万円)、貸倒引当金の増加(20億6千9百万円)、減価償却費(20億1千5百万円)などの増加要因により、189億5千3百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

B 投資活動によるキャッシュ・フロー

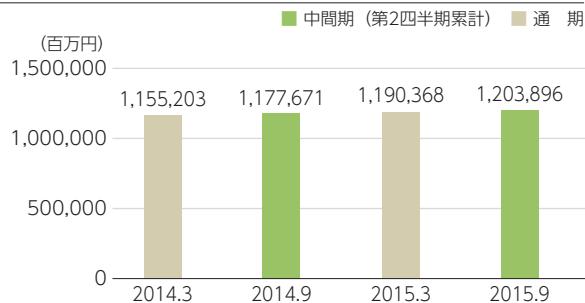
投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出(5億8千万円)、無形固定資産の取得による支出(5億7千5百万円)、有形固定資産の取得による支出(3億7千6百万円)などにより、13億円のキャッシュ・アウトとなりました。

C 財務活動によるキャッシュ・フロー

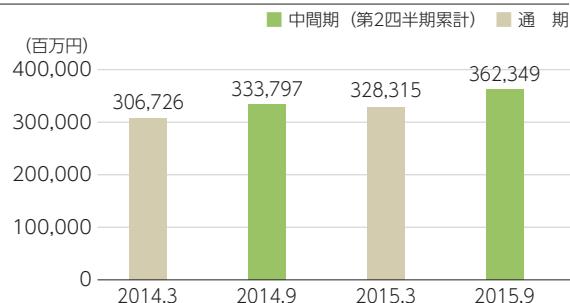
財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の借入等による収入が、有利子負債の返済等による支出を225億1千3百万円上回ったことなどにより、220億4千2百万円のキャッシュ・インとなりました。

連結財務ハイライト

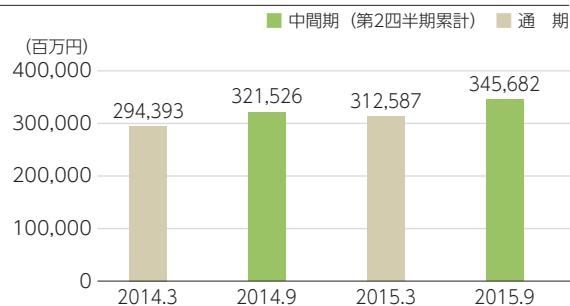
総資産



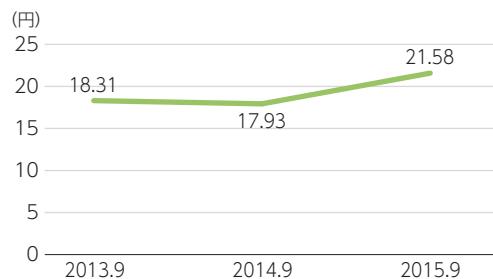
純資産



自己資本

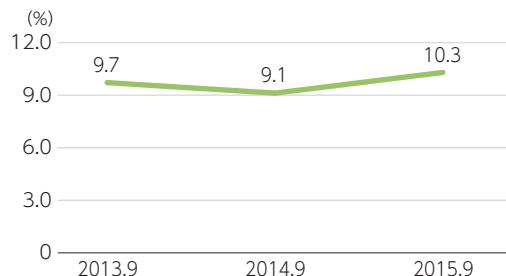


EPS (1株当たり当期純利益)

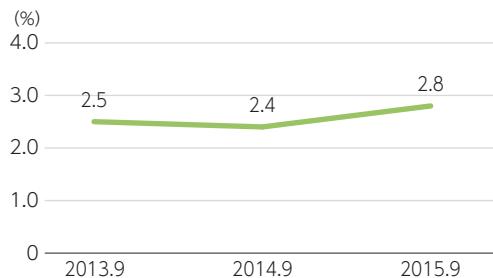


(注) 当社は2013年10月1日付で、普通株式1株につき10株の割合をもって分割する株式分割を実施いたしました。これに伴い、2013年9月の「1株当たり当期純利益」は当該株式分割がおこなわれたと仮定して算定しております。

ROE



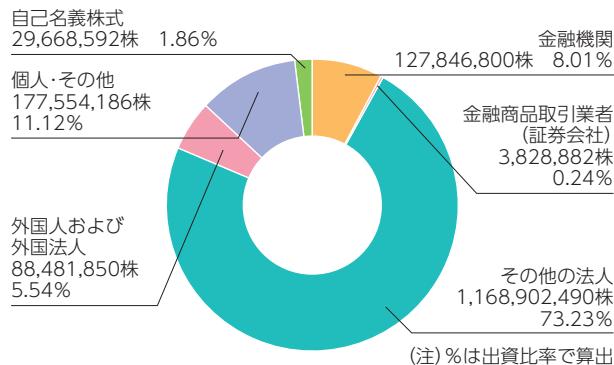
ROA



株式数および株主数

発行可能株式総数	5,321,974,000株
発行済株式の総数	1,596,282,800株
株主数	12,162名

所有者別分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	588,723,490	37.57
丸糸殖産株式会社	273,467,550	17.45
マルイト株式会社	125,533,430	8.01
公益財団法人木下記念事業団	92,192,320	5.88
株式会社丸糸商店	38,733,200	2.47
三菱UFJ信託銀行株式会社	31,572,800	2.01
木下盛好	30,007,260	1.91
株式会社暢佳	30,000,000	1.91
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4)	26,702,000	1.70
株式会社イトコー	18,942,000	1.20

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式29,668,592株があります。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

アコムは三菱UFJフィナンシャル・グループの連結子会社です

当社は、2008年9月、(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ (MUFG) ならびに(株)三菱東京UFJ銀行と締結していた三者間の戦略的業務・資本提携の関係を一層強化すると公表しました。

これまでのパートナーシップを通じて培ってきた相互の信頼関係に基づき、「今後の消費者金融市場の健全な発展に中核的役割を果たすことが社会的使命」との認識で一致したもので、これにより、2008年12月、MUFGの連結子会社となりました。

当社は、MUFGグループの「消費者金融事業」と「カードローンにおける信用保証事業」の中核企業として位置づけられています。

会社の概要

商号	アコム株式会社
(英文社名)	ACOM CO., LTD.
設立年月日	1978年(昭和53年)10月23日
(創業)	1936年(昭和11年)4月2日
資本金	638億3,252万円
主な事業内容	ローン事業・包括信用購入あっせん事業(クレジットカード事業)・信用保証事業
従業員数	1,935名
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
登録番号	関東財務局長(11)第00022号 関東(包)第5号
加盟団体	日本貸金業協会 一般社団法人日本クレジット協会 一般社団法人日本経済団体連合会
主要取引金融機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

取締役・監査役および執行役員

代表取締役社長兼会長 (兼 社長執行役員)	木下 盛好
代表取締役副会長	梶浦 敏明
常務取締役 (兼 常務執行役員)	木下 政孝
常務取締役 (兼 常務執行役員)	福元 一雄
常務取締役 (兼 常務執行役員)	提橋 輝幸
取締役	柳井 隆博
取締役 (社外・独立役員)	梅津 光弘
取締役 (社外・独立役員)	新穂 均
常勤監査役	佐藤 茂
常勤監査役 (社外・独立役員)	伊藤 達哉
監査役 (社外・独立役員)	高田 修隆
監査役 (社外・独立役員)	土井 隆
常務執行役員	田淵 悦郎
常務執行役員	厚田 理郎
常務執行役員	松谷 信吉
常務執行役員	内田 智視
常務執行役員	近藤 誠
常務執行役員	嘉村 康裕
執行役員	北 芳治
執行役員	渡邊 範善
執行役員	松原 義則
執行役員	宮川 悟
執行役員	小野寺 道人
執行役員	鹿野谷 智雄
執行役員	曾根 雅行
執行役員	桐 高志
執行役員	清岡 哲弘

アコムグループ

< 連結子会社 >

- エム・ユー信用保証株式会社
- アイ・アール債権回収株式会社
- EASY BUY Public Company Limited
- PT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk. 他3社

< 持分法適用関連会社 >

- エム・ユー・コミュニケーションズ株式会社



acom

A — Affection 愛情

CO — Confidence 信頼

M — Moderation 節度

アコム株式会社

本社 〒100-8307
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
(明治安田生命ビル)
電話(03)5533-0811(代表)
ホームページ <http://www.acom.co.jp>

表紙のタイトル

「KEY NOTE (キー・ノート)」には、株主の皆さまに、アコムグループをより深くご理解いただくための〈鍵となる報告書〉でありたいという願いが込められています。小誌が当社グループの概況を知るための一助となれば幸いです。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 (http://www.acom.co.jp) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
銘柄コード	8572

お知らせ

- 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。